

# (株)アグリズ・ワン/和光ミートセンター

## 年度内にコーデックス基準のHACCP取得予定 資本・業務提携による稼働増大にも期待感

ミート・コンパニオン(MC)グループの食肉センターである(株)アグリズ・ワン/和光ミートセンター(埼玉県)。2016年度は、牛の全国的な出荷減少が続く中、地域特性を付加価値としたブランド化構築を旨としたが、生産地域からの集荷増達成とはならなかった。一方、豚はPED発生などもまだみられるが、出荷量は回復傾向。今後は順調な伸びが予想される。

ことし3月1日には親会社である(株)ミート・コンパニオンが(株)ニイチクと資本・業務提携を締結。これにより、「当食肉センターの共有活用など、両社の産地政策やブランド強化に加え、両社の協業による産地との関係強化や取り組みがより一層図られることで、国内牛肉の販売が伸張し、当センターの稼働増大につながることを期待したい」と阿部社長は説明する。

2017年度は4月1日付で執行部を一新、阿部社長以下新体制での船出となった。牛においては北海道や東北を中心に、生産地に一步踏み込んだ集荷サイクルの再構築を図り、牛処理場の稼働を高めることを最優先とする。近県の生産地については地産地消、地域特性や生産者のこだわりを十分生かせるようなブランド化を進め、取引先へ産地や生産者情報が、キメ細かく届くような販売を構築。生産地では情報交換をしながら生産者の出荷計画の策定時から係わり、安定出荷、安定集荷を旨とし、生産者の経営安定を図れるようなパートナーシップ構築を旨とする。衛生面ではすでにSQF取得から3度更新をしているが、さらに従業

員教育を再徹底し、本年度中にコーデックス基準のHACCPを取得予定だ。

また、同センターは東南アジア5カ国の輸出食肉認定施設となっている。成熟した輸出市場であるタイ、マカオ、さらに中国に置き代わって工業団地や開発



阿部昌史代表

特区の工場開発が目覚ましいベトナム、ミャンマー、さらにフィリピンには昨年、MCグループとして現地法人を設立。今後の有望な輸出マーケットとして期待される。

MCグループは輸出向け牛肉の品質の安定と差別にもこだわり、地域や産地ブランドに限定されない一方で臨機応変な輸出対応と、卓越した牛肉の目利き集団として海外の顧客に高い評価を受けている。同社の取り扱う「WAGYU SAMURAI」について、阿部社長は「単なる輸出ブランドではなく、国内の和牛肥育農家において優秀な牛肉を生産する熟練者を匠として認定し、その生産された卓越した牛肉にのみ与える象徴として、さらにブランド力を高めて発信していきたい」と話す。また、「TOKYO X」は東京オリンピック・パラリンピックに向けた増頭計画に入っている。欧米人に関心の高い生産工程の優位性について、「TOKYO X」は理念や飼養基準が確立されており、さらに需要拡大が期待される。

### 2016年度取扱高と取扱頭数、およびそれぞれの前期比

牛枝肉=セリ・取扱高	1億7,000万円①	118.5%	取扱頭数	5,100頭	104.5%
牛枝肉=相対・取扱高	37億9,000万円②	94.7%	取扱頭数	5,000頭	86.7%
豚枝肉=セリ・取扱高	1億6,000万円③	106.6%	取扱頭数	5万7,000頭	107.8%
豚枝肉=相対・取扱高	1億9,800万円④	94.2%	取扱頭数	6,000頭	103.6%
牛部分肉=取扱高	1億7,000万円	94.2%	取扱頭数	5,400頭	90.0%

①と畜経費+副産物仕入高 ②枝肉仕入高 ③と畜経費+副産物仕入高 ④枝肉仕入高

### 牛肉の主要取り扱い産地 上位3県

1位	栃木県
2位	北海道
3位	埼玉県

### 牛肉の主要取り扱い銘柄

彩さい牛、五穀牛、特選和牛静岡そだち

### 2017年度取扱高と取扱頭数、およびそれぞれの前期比(計画)

牛枝肉=セリ・取扱高	1億8,500万円	108.82%	取扱頭数	5,500頭	107.84%
牛枝肉=相対・取扱高	41億2,000万円	108.71%	取扱頭数	5,500頭	110.00%
豚枝肉=セリ・取扱高	1億6,800万円	105.00%	取扱頭数	6万頭	105.26%
豚枝肉=相対・取扱高	2億1,000万円	106.06%	取扱頭数	6,500頭	108.33%
牛部分肉=取扱高	1億9,000万円	111.75%	取扱頭数	6,000頭	111.11%

### 豚肉の主要取り扱い産地 上位3県

1位	群馬県
2位	埼玉県
3位	東京都

### 豚肉の主要取り扱い銘柄

TOKYO X、狭山丘陵チェリーポーク